

SDGs未来都市かわさき

SDGs推進に関する川崎市の高いポテンシャルと達成に向けた提案が評価され、2019年7月1日に「SDGs未来都市」に選定されました。



「SDGs未来都市」選定証授与式 総理大臣官邸（令和元年7月1日）

「SDGs未来都市」とは

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域です。

「SDGs未来都市かわさき」として、三側面をつなぐ統合的取組を推進



サステナブルな
かわさきを
めざして



これまでのあゆみ

- 1999年 ● 世界経済フォーラム(ダボス会議)の席上で、コフィー・アナン国連事務局長(当時)がグローバル・コンパクトを提唱。翌年国連本部で正式に「国連グローバル・コンパクト」発足。
- 2003年 ● 日本でのローカルネットワーク「GCNJ」発足
- 2006年 ● 川崎市、国連グローバル・コンパクトに署名
- 2008年 ● 「かわさきコンパクト委員会」設置
- 2015年 ● 国連で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択される。
- 2019年 ● 「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」を2月に策定。
同年7月に川崎市が「SDGs未来都市」に選定される。「かわさきコンパクト委員会」解散



2016年度 かわさきコンパクトフォーラム

2017年度 かわさきコンパクト交流会

2018年度 かわさきコンパクト交流会

国連グローバル・コンパクトとは？

国連グローバル・コンパクトとは、国際社会の持続可能な成長を実現するために国家や国際機関のみでは解決困難な「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野の課題から確立された10原則に対して、企業や団体に自発的な参画・取組を促すものです。1999年アナン事務総長(当時)が提唱し、2019年10月現在、世界約160ヵ国で1万3000を超える団体が署名しています。

国連グローバル・コンパクト10原則

- | | |
|--------|--|
| 〔人権〕 | 原則1 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。 |
| 〔労働〕 | 原則3 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。 |
| 〔環境〕 | 原則7 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。 |
| 〔腐敗防止〕 | 原則10 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。 |

川崎市と国連グローバル・コンパクト

川崎市は、日本の自治体で唯一「国連グローバル・コンパクト」に参加しています(2006年署名)。市民・企業・行政等の連携によってその理念を市内に展開していくため、川崎オリジナルの「かわさきコンパクト」を定め、10年以上にわたり取組を推進してきました。

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」をきっかけとして、持続可能な社会の実現に向けた取組が更なる広がりを見せています。川崎市においても、2019年2月に川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針を策定しました。今後も多様なステークホルダーやセクターとの連携、協力を行い、持続可能な地域社会、国際社会づくりの輪の実現を推進してまいります。

川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針の策定



平成27(2015)年9月に国連において、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として、持続可能な開発のための2030アジェンダが採択され、この中に「持続可能な開発目標(SDGs)」として17のゴール(目標)が掲げられています。

SDGsの課題は、本市の計画で掲げている「めざす都市像」や「まちづくりの基本目標」と共通するものが多く、本市の持続的な発展を図る上では、本市自らが積極的にSDGs達成に寄与する取組を進めていく必要があることから、SDGs推進に関する基本的な方針である「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」を、2019年2月に策定しました。国の動向等を踏まえながら総合計画の各施策・事務事業を実施することで、全庁をあげてSDGs達成に寄与する取組を推進するとともに、職員一人ひとりがSDGsの趣旨を十分に理解した上で、持続可能なまちづくりや、誰一人取り残さないことなどを強く意識した取組を進めます。また、各施策・事務事業の連携や市民、企業、団体等の多様なステークホルダーとの連携を図ることにより、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指した取組を推進します。

川崎市総合計画

めざす都市像

成長と成熟の調和による
持続可能な最幸のまち さいこう かわさき

まちづくりの基本目標

- ◎安心のふるさとづくり
- ◎力強い産業都市づくり

SDGs(持続可能な開発目標)とは

平成27年に国連において、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として、持続可能な開発のための2030アジェンダが採択。この中に、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、17の目標としてSDGsが掲げられた。



川崎市総合計画のめざす都市像とSDGsは
同様の方向性

川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針 平成31年2月策定

基本的な考え方

総合計画を推進することを基本に、全庁をあげてSDGs達成に寄与する取組を推進する。持続可能なまちづくりや誰一人取り残さないことなどを強く意識した取組を進めるとともに、多様なステークホルダーと連携し、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指す。